

# さくらそう通信

## 四街道のサクラソウ

### ●四街道市の紹介

四街道市は、千葉県の北西部に位置し、県都千葉市へ8キロ、都心へ40キロの圏内にあり、広域幹線道路の国道51号線、東関東自動車道が縦断し、千葉市、佐倉市に隣接しています。市域は東西7キロ、南北9キロ、面積34.7平方キロメートルです。

昭和30年3月、千代田町と旭村が合併し、四街道町が誕生。人口は1万8014人でした。昭和40年代前半からは、幾つかの大型団地が誕生し、首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加することで、昭和56年4月には、千葉県で28番目に市政が施行され、自然と都市機能が調和したまちとして、これまで成長を遂げてきました。

21世紀に入った今日、四街道市では、約8万6000市民による「市民参加のまちづくり」を推進しています。

### ●市の花「サクラソウ」の誕生

市の花としてサクラソウが指定された経緯は、平成13年の市制20周年を記念して、市民アンケートを実施した結果、もっとも多く得票数を集めた花だからです。

春に美しい花を咲かせ、希望という花言葉を持つサクラソウは、当時、千葉市との合併議論が活発になされ、市の将来を真剣に考える時期にあった当市にとってふさわしい花であり、2位であったデージーと234票の差をつけ、1334人の方たちがサクラソウを市の花として支持しました。

また、市内に12校ある小学校のうち、市役所に一番近い中央小学校の児童が西洋サクラソウを花壇で栽培していたのが、得票数を伸ばした大きな理由であったと思われれます。

### ●四街道サクラソウの会の発足と活動の実績

四街道サクラソウの会は平成17年1月に発足いたしました。市が市政だよりにて会員の募集を行ったもので、約50名の市民が会員になりました。活動の始まりは、1月30日(日)中央小学校で「サクラソウ育成講習会」を開催し、芽分け作業と芽の植え付け



四街道のサクラソウ（市役所ロビーでの展示）

作業を行ったことです。その後、2月下旬に芽の追加配布を行い、会報紙を発行することで、会員に向けてサクラソウの育成指導を行いました。

4月22日(金)には、会員の親睦を深めるため、国の特別天然記念物にも指定されている「田島ヶ原サクラソウ自生地」の視察見学会を行いました。

市有バスの乗車定員一杯の45名の会員が参加し、磯田先生(さいたま市文化財調査専門員)、埼玉さくらそう会の皆さんとさいたま市職員のご厚意により、現地での懇切丁寧なご説明、農業者トレーニングセンターでの埼玉さくらそう会への質疑応答など、とても充実した時間を過ごすことができました。

ノウルシに混じり自生地に咲き誇るサクラソウは、これまで鉢植えだけで鑑賞してきた会員にとって、大きな感動



サクラソウ育成講習会



田島ヶ原の自生地を見学



埼玉さくらそう会との交流

を与えるものでした。

4月25日(月)～28日(木)の4日間は、会員が手塩にかけて育てたサクラソウの展示会が市役所ロビーで開催され、展示棚に会員の作品52鉢がずらっと並びました。

会員の大半は日本サクラソウの育成に日も浅く、育てるのに試行錯誤したことと思いま

すが、どの作品も見事に花が咲き、会員それぞれの個性を映し出していたようにも思えました。

市の花として指定されているサクラソウですが、まだまだ市民の皆さんの知名度は低く、展示会では、西洋サクラソウと間違えられることもあり、その違いを尋ねられることもありました。しかし、市役所に来庁された市民の皆さんが、改めてサクラソウの美しさを実感し、サクラソウを通じて市民の皆さんと会員が交流できたことは大きな収穫でした。

9月6日には第1回の総会が開催され、会員の9割の出席者から、会の活動方針を定めた会則や会の運営を担う役員を選出について、承認を得ることができました。現在では、月に一度の定例会を行うなど、会の活動も軌道にのりつつあります。

#### ●四街道サクラソウの会の今後の活動

会の活動内容のひとつとして、サクラソウが自生できそうな環境に原種に近い品種を植え込み、さくらそうの名所をつくる「サクラソウのじゅうたん事業」があります。

本事業については、市の基本計画にも位置づけられてい

るものであり、サクラソウの会と市の協働事業により、実現に向けた様々な取り組みを行う予定です。

平成17年12月には、市職員を交え、四街道市総合公園をはじめとした候補地の見学会を行いました。

今後は、試験的にサクラソウの苗を候補地に植えて、四季を通じた候補地の環境状況調査等を実施してまいりたいと考えていますが、田島ヶ原の見学会でもお世話になった磯田先生からご指導いただくなど、さいたま市の皆さんがこれまで蓄えられた知識や経験をご教示いただければと考えております。

また、本年1月末には小中学校の職員の皆さんにサクラソウの芽分け、植え付けの講習会を行いました。花が開く時期には、きっと多くの生徒や保護者の目を楽しませてくれることでしょう。四街道市のサクラソウの輪が更に大きく広がっていくことを期待しています。

4月の24日(月)から28日(金)には、市役所ロビー(現在、市内大型店舗についても出展場所として使用できないかを交渉中)にて、第2回目の展示会が開催される予定です。昨年の展示会に出品した作品に負けないよう、会員一人ひとりが夏場の水遣りをはじめとして徹底した管理を行ってききました。どのような作品が出展されるか会員一同楽しみにしているところです。

#### ●サクラソウから始まる地域の輪

近年の核家族化の進展は、当市の福祉行政にも大きな影響を与えています。サクラソウ普及事業は市のCI事業として位置づけられているところでありますが、サクラソウの会の活動が活発になるにつれ、普及活動に留まらず会員同士の日常生活のたすけあい活動も活発になってきています。全国的にみても、高齢者の引きこもりなどは大きな社会問題とされているところでありますが、サクラソウの会に属する会員にはそのような孤立した人は見受けられません。今後ともサクラソウから始まる地域の輪が広がっていくことを市としても期待しています。

四街道サクラソウの会

会長 仲田 隆

四街道市総合政策部事業政策課

黒岩正和



「サクラソウのじゅうたん事業」3ヶ所の候補地

いま、田島ヶ原が危ない —このままでは田島ヶ原がカラカラに乾いてしまう—



写真1 早春の田島ヶ原



写真2 サクラソウの株数調べ

田島ヶ原の春はノウルシの黄とサクラソウの紅で色鮮やかに染まり、自然の息吹が感じられます。その頃、特別天然記念物の

指定地では、かがみ込んでサクラソウを丹念に数えている人々の姿が目につきます。(写真1、2)

数えることで、指定地にサクラソウがどれほど生えているのかが分かるし、毎年数を比べれば、サクラソウが増えたのか減ったのかを知ることができます。このようなことを知るために、1965年からサクラソウの株数を調べているのです。調べたサクラソウの株数を図表にしてみると、田島ヶ原ではサクラソウが増えたり減ったりしながらも全体としては増えていることや、現在は約190万株のサクラソウが生えていることなどが分かります。(図1)

図をざっと見ると、田島ヶ原には多数のサクラソウがあり、増えてもいるので、そのサクラソウが無くなる心配などないように思えます。しかし、図をじっくり見ると心配なことが見つかるのです。それは、2003年にはサクラソウが最も増えて約230万株になりましたが、翌年の2004年に

指定地の環境が変化したことで、サクラソウは生活しにくくなって減ったのです。その後、指定地周辺での開発が終わり、また、地下水の汲み上げが制限されると、指定地の環境は次第に元に戻り、サクラソウは再び増え始めました。

近年の観察で、しばらくの間雨が降らないと指定地では土地が著しく乾いてしまうことが分かったので、このことが2004年と2005年にサクラソウが続けて減った原因と考えられています。1969年から1972年にかけてサクラソウが減った時の原因と同じく、指定地が乾くことだったのです。

では、指定地が乾くようになった理由は何でしょうか。その訳を調べているうちに、指定地を囲んで「さくら草公園」が造られていたり、指定地の南方に「彩湖」が建設されていたりして、以前とは指定地周辺の様子がすっかり変化していることに気がきました。この変化が指定地の乾燥を引き起こしているらしいのです。(図2)

「さくら草公園」の場所は、元は湿地でした。人々の憩いの場となる芝生広場を造るため、土地が乾きやすいように排水施設を設けたのです。ところが芝生広場と隣りあった指定地も一緒に乾くようになったのです。(写真3)

「彩湖」は荒川の洪水を調節して災害を防ぐための大きな人造湖です。周りには洪水を調節する田繞堤(いじょうてい)と呼ばれる巨大な土手が築かれています。指定地のあ

る田島ヶ原一帯もこの田繞堤によって取り囲まれているのです。以前は荒川があふれるたびに多量の水と泥が押し寄せて指定地を湿地にしていたのですが、現在では田繞堤で取り囲んだ内側には減りに荒川の水が入らないように造られているのです。指定地を湿地にしてきた多量の水と泥が荒川から運びこまれることがなくなって、指定地は乾くようになったと考えられるのです。

この他にも、「アスファルト舗装の道路」が多数造られたために、以前は地中にしみ込んで指定地を潤していた雨水が、現在では舗装道路の表面をぬらすだけで外に流れ去ってしまうことなど、いろいろな理由があります。これらをま

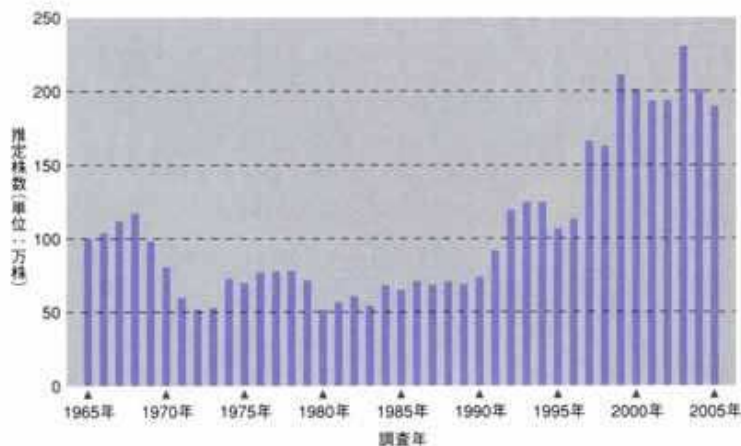


図1 田島ヶ原におけるサクラソウの株数の変化



図2 田島ヶ原の周辺の様子

『荒川第一調節池 川とくらしの未来を見つめて』国土交通省荒川上流河川事務所 平成16年3月 より転載

とめると、指定地周辺の姿を人間が変えたことが指定地の乾燥を引き起こしているといえるのです。(写真4)

それならば、どうすればサクラソウが減るのを防ぐことができるのでしょうか。1969年から1972年にかけてサクラソウが減った時と同じように、指定地に乾燥を引き起こした原因が無くなれば良いのですが、今回は原因が「さくら草公園」や「彩湖」なので、大切な役割を担って建設されたものが無くなることはないでしょう。

「さくら草公園」や「彩湖」を取り壊して指定地周辺を元の姿に戻せないとすれば、指定地に水を注いで乾燥しないようするという考えがあります。じつは、1969年から1972年



写真3 「さくら草公園」の芝生広場



写真4 雨水を流し去る舗装道路と排水施設

にかけてサクラソウが減った時に、汲み上げた井戸水をスプリンクラーを使って散水したことがありました。この時は、4.2haもの広い指定地

のため、散水に長い時間がかかったり、多量の井戸水が必要となったことと、水を最も必要とする夏場に背丈の高くなったオギが散水を妨げたことで、この方法は失敗ということになりました。井戸水のかわりに近くの鴨川や荒川の水を使うことも検討したのですが、欠点があって今の

ところ行われていません。サクラソウのように湿地が生育に適している植物を湿生植物といいます。田島ヶ原は湿生植物の宝庫で、サクラソウを始め、ノウルシ・ヒキノカサ・シロボウエンゴサク・ムラサキケマン・ツボスミレ・チョウジソウ・ムラサキサギゴケ・トダスゲ・オギなど、指定地で観察できる植物の大部分が湿生植物なのです。これらの湿生植物は湿地では元気で、湿地が乾くと弱って生育できなくなります。したがって、指定地が乾燥する

ようになったということは、サクラソウが減るだけでなく、他の大部分の植物にとっても消滅の危機に直面していることなのです。(写真5)



写真5 田島ヶ原が乾くと姿を消す植物たち

指定地を乾燥させない方法が見付からないために、現在の指定地は雨水だけで湿地が維持されています。雨次第の天候まかせという不安定な環境のもとで、サクラソウや他の湿生植物は生育しているのです。サクラソウは2004年と2005年に続けて減っていますが、2006年はどうなることでしょう。天候に恵まれて、増えることを祈るばかりです。

(資料協力 国土交通省荒川上流河川事務所)

埼玉野生植物研究所 磯田洋二(さいたま市文化財調査専門員)

さくらそう通信 21号 平成18年3月20日  
編集・発行 さいたま市教育委員会  
さいたま市浦和区常盤6-4-4 ☎048-829-1723